

# 絆

155 号



自由民主党

前衆議院議員

# 桜田よしたか



## 日本！この国を強い国に！ ～国・地域・家族を守る～

### 野田首相は一日も早い解散・総選挙を！

### 自民支持率、劇的に回復！ 安倍新体制で政権奪還

自民党と民主党の新しい執行部がスタートしました。ともに衆議院解散・総選挙を見据えての布陣です。選挙という目標は一緒ですが、航路が大きく異なります。自民党は**政権奪還に向けて大海原への船出**、一方の民主党は政権を手放したくないため、島影に身を隠し**任期満了という港に逃げ込む作戦**です。どちらの道が**国益**にかなうのか？ どちらの政党が**国民に安心と安全**をもたらすか？ 今月3日の主要全国紙は、最新の世論調査の結果として自民党の支持率上昇と民主党の低迷ぶりを報じました。主な政党支持率は以下の通りです。 (カッコ内は前回9月の調査結果)

	【読売新聞】	【朝日新聞】
▽自民党	28% (21%)	21% (15%)
▽民主党	18% (15%)	14% (16%)
▽日本維新の会	2% (2%)	2% (—)

自民党の28%という数字は、3年前の野党転落以降最高で、11割弱に支持が回復していることを裏付けています。民意はすでに示されているのかもしれませんが。

### 安倍自民党 石破幹事長との二人三脚で最強の布陣

9月26日行われた自民党総裁選で 安倍晋三元首相 (58) が選出されました。安倍氏は40年ぶりという決選投票の末の**逆轉勝利**です。前回の絆154号でお知らせしたように、私は**当初劣勢**が伝えられた**安倍氏の支持**に回りました。その安倍さんが総裁に返り咲いたことは私の喜びとするところですが、併せてこの度の選挙戦を通じてご理解、ご支援をいただいた**党员、有権者の皆さま**に改めて御礼申し上げる次第です。安倍新総裁に課せられた使命は言うまでもありません。次の**総選挙での勝利と政権奪還**、そして民主党政治によりズタズタにされた日本の再建です。

#### ◆決選投票

安倍晋三	108 票
石破 茂	89 票

#### ◆第1回投票 計 国会議員 党员

石破 茂	199	34	165
安倍晋三	141	54	87
石原伸晃	96	58	38
町村信孝	34	27	7
林 芳正	27	24	3

#### ●“お友達”は卒業。新執行部はオール自民党

もうノーサイドにしましょう——総裁選出後のあいさつで安倍さんはこう語りかけました。選挙戦は終わったのだから、これからは**全党員一致して難局に当たろう**という宣言です。代表選を終えても**ごたごたが絶えない民主党**＝後述＝とは大きな違いです。オール自民党構築の第一弾として、安倍新総裁は幹事長に石破氏を起用しました。分かりやすく舌鋒鋭い語り口で国民的人気が高く、総裁選でも半数を超える党员票を集めた石破氏を党の要、党の顔として処遇し、総選挙の先頭に立ってもらおうとの判断です。総裁選では激しく争った二人ですが、**外交・安保の基本政策**がほとんど一致しています。日米同盟の重視しかり、集团的自衛権の解釈変更しかり、海兵隊型即応部隊の新設しかりです。私はこの二人三脚は最強の布陣と期待しています。このほか、**政調会長**に甘利明氏、**総務会長**には細田博之氏が就任しました。細田氏は町村陣営の選挙対策総本部長を務めたベテランです。党三役のうち二人までを総裁選の対立陣営から選んだことで、**真の挙党態勢**が整いました。

## ●なぜ石破氏ではいけないの？～疑問に答えます

石破氏は第1回投票で党员票の過半数を集め、断トツの1位だった。総裁選は民意を反映していないのではないかと——こんな声をよく耳にします。投票結果をみれば（前ページ別表参照）その通りです。しかし、安倍氏が総裁に選ばれたのには確かな理由があります。決選投票にこのぞんだ国会議員の多くは、石破氏の人気が高く、党员の圧倒的な支持を得ているのを承知しながら、国民の代表として判断し、安倍氏に1票を投じたのです。第1回投票は党内の民意、決選投票は有権者の付託を受けた民意の反映——こう考えると分かりやすいかもしれません。

総裁選のあと、安倍氏は党内世論、石破氏の人気、実力を十分に配慮して党要職への就任を要請、石破氏もルールはルールとして納得の上、気持ちよく受け入れました。あとはコンビの突破力に期待するだけです。

## ●安倍氏の“政権投げ出し”批判に答えます

もうひとつ、街頭などでよくお聞きするのは、安倍氏が政権を投げ出す形で退陣したことへの批判です。安倍氏は5年前、任期半ばで首相を辞任しました。病気が理由とはいえ、その責任が消えることはありません。政治家として重い十字架を生涯背負っていくことになるでしょう。健康を回復し、再び総裁の椅子に座った今、安倍氏にできることは、それこそ命がけで仕事に取り組み、実績を積み上げていくしかありません。政治への信頼回復、日米同盟の再構築、尖閣・竹島など領土問題への対応、財政再建、原発を含む新しいエネルギー政策、東日本大震災からの復興、少子高齢化に伴う諸問題……日本の前途には課題が山積しています。日本が直面するこれらの課題に骨太で明快なビジョンを示し、一つ一つを地道に解決していくこと。そうした取り組みこそ、ある意味で、政権投げ出し批判に対する唯一の説明、お詫びになるのではないのでしょうか。安倍さんなら必ずやってくれると思います。

私は、そんな安倍氏をこれからも支えていく決意です。

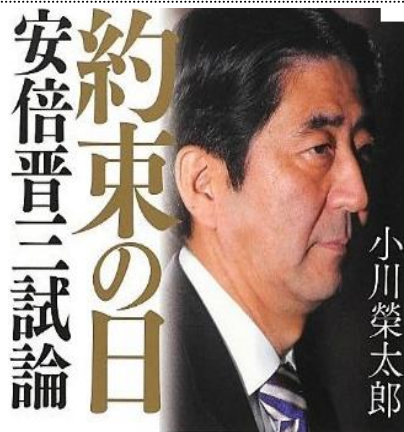
### 【9月26日自民党総裁選ドキュメント】



投票日当日朝、開票に向けた出陣式にて。自民党の多くの有志が集結して多いに氣勢を挙げました。（手前は櫻田）



安倍選挙対策本部にて、埼玉県の山口泰明前議員と共に。各都道府県からの速報をもとに情勢を分析中。



## 「安倍の葬式はうちで出す」

安倍内閣当時の、ある朝日新聞幹部の発言だ。勿論、表に出る発言ではない。〈中略〉この「大新聞」の安倍への憎悪は、本物だった。それを裏付ける例として、私は先頃引退した評論家の三宅久之氏から、次のような話を聞いたことがある。朝日新聞の論説主幹の若宮啓文（よしづみ）氏と会った時にね、「朝日は安倍というといわずらに叩くけど、いいところはきちんと認めるような報道はできないものなのか？」と聞いたら、若宮は言下に「できません」と言うんですよ。で、「何故だ？」と聞いたら「社是だからです」と。安倍叩きはうちの社是だと言うんだからねえ。社是って言われちゃあ……。



自民党本部の前には、安倍晋三支持の国民が集まり熱狂的に応援しておりました。現在の民主党政権に大変な危機感を抱いている党员ではない、多くの皆さんが自民党まで来て応援してくださいました。

## 野田内閣改造 何のため？ 目的不明、意味不明瞭

### 内向き、在庫一掃、論功行賞…「反野田」は冷や飯

民主党代表選で再選を果たした野田首相は10月1日、内閣改造を行い、第3次改造内閣が発足しました。

「政府・与党の連携を一層深め、内閣の機能を強化する」と野田首相は記者会見で3度目の改造の狙いを語りました。しかし、どこがどう悪く、具体的にどうしたいのか、ターゲットがさっぱり見えてきません。新内閣の顔ぶれを見ると、衆院選を前に入閣心待ち組の議員を大臣に抜擢してハクをつけるとともに、これ以上の離党者を防ごうという「内向き」の姿勢ばかりが目につきます。代表選で野田首相と争った3候補の陣営からの入閣はゼロ。このため、「露骨な論功行賞人事だ」「挙党一致には程遠い」といった反発が起きています。また、「こんな党にはもういたくない」と離党を示唆する議員もいて、新たな党内紛争の火ダネになりそうです。

常識では理解しがたい、サプライズ人事もありました。文部科学相に起用された田中真紀子氏です。田中氏は自民党小泉内閣の外相でしたが、外務省を「伏魔殿」と呼んで官僚と対立、常軌を逸した行動でも物議をかもし、解任されました。こんな“過去”を持つアブナイ人物をなぜ閣僚に据えたのか？ 独特の物言いで根強い人気のある田中氏が「反野田」のミコシに祭り上げられるのを防ぎ、同時に選挙用の“人寄せパンダ”として内閣に取り込んだ一石二鳥の作戦という見方があります。しかし、自己保身、選挙対策で閣僚を決めたとしたら、国民を馬鹿にした話です。田中氏起用はまさに両刃の剣。時限爆弾のスイッチが入ったとしか私には見えません。

もう一人の田中氏——初入閣の田中慶秋法相もなにかと話題の多い人物。悩みの種になりそうです。就任早々、外国人企業からの献金が明るみに出ました。在日台湾人が横浜中華街で経営する飲食店から計 54 万円の献金をもっていたというのです。法相と言えば“法の番人”、即ち辞任に値する不祥事です。

もうひとつ問題なのは、閣僚がくるくる変わる「猫の目人事」の弊害です。民主党政権になってから少子化相はもう 10 人目、消費者相は 9 人目、拉致担当相は 7 人目になりました。これでは政策の継続性など望むべくもありません。アドリブだけあげておいて、あとは適当に担当者を選び、テキトーに大臣の椅子を割り振ればよい——適材適所のままで逆じゃないですか。国民をないがしろにする政治には手痛いしっぺ返しを待っています。国会答弁すら満足に出来ない閣僚の起用、政策の継続性より党内事情を優先する内閣…こんな政党に日本を任せておいて本当にいいんですか？ 審判を下すのは主権者であるアナタです。

### 政局秋の陣はガチンコ対決——「近いうち解散」の約束守れ！ 反故なら不信任案提出も

自民党・安倍新総裁、野田首相と役者は出そろいました。いよいよ政局秋の陣の幕が開きます。

安倍自民党の最初の大仕事は、野田首相を解散・総選挙に追い込むことです。野田首相は今年 8 月はじめ、民主・自民・公明の 3 党首会談で「社会保障と税の一体改革関連法案が成立した翌には、近いうちに国民の信を問う」と約束しました。あれから 2 か月…約束はどうなっているのでしょうか？ 「近いうちにメシでも食おう」と言ったら、世間一般の常識ではせいせい 1 か月、最大待っても 3 か月が限度です。それでも誘いがなければ「アイツは口先だけの人間」というレッテルを貼られ、信用を失います。谷垣前総裁との約束は公党間の話、ひいては国民との約束です。野田首相は“紳士協定”を守り、どんなに遅くとも年内には解散・総選挙を実施すべきです。

#### ？？？秘書のボーナスが出るまで解散はない？？？

下世話な話ですが、解党時期からんで民主党の一部でささやかれている噂を耳にしました。衆議院解党は 11 月 16 日以降になるというのです。解説を聞くと、それ以前に解散されると国会議員の公設秘書（各 3 人）が失職し、12 月のボーナスがもらえなくなる。だから、野田首相は 11. 16 より前の解党には絶対に応じない——というのです。「なるほど。しかし、まさか…」です。私は笑い飛ばしましたが、本当だとしたら国民無視もはなはだしい。ぐずぐずと選挙を先延ばししているから、無責任な話がひとり歩きするのです。こんな噂を払いのける意味でも、野田首相は思い切って選挙に踏み切ってはいいですか。

## ●協力を得たいなら、解散時期の明示を！

国会には待ったなしの課題が山積しています。赤字国債発行のための**特例公債法案**、「1票の格差」**是正**を含む**衆院選挙制度改革法案**、**社会保障制度改革国民会議**の早期発足です。中でも**特例公債法案**が成立しないと**11月末には2012年度予算の財源が枯渇**し、行政サービスなど国民生活にも影響が生じる恐れがあります。

自民党はその点を十分承知しています。国民の暮らしに直結する法案を、わけもなく“人質”にとるつもりはありません。ですから**安倍総裁は同法案に協力する条件として①解散時期の明確化 ②12年度予算の減額補正 ③衆議院選挙制度改革での「0増5減」の先行実施**——この三つを挙げています。これを飲む、飲まないは野田首相の決断ひとつです。野田首相が年内解散に応じないなら内閣不信任案を突き付け、解散に追い込むべき、と私は思っています。衆議院の勢力図を見ると、民主党は243（国民新党を加えた与党は246）。単独過半数の239割れまでマジック5というきわどい情勢です。民主党から新たに5人が離党するか造反すれば、ひょっとすると内閣不信任案が成立する危険水域に突入しました（＝数字は10月5日現在＝）。

## ●次期総選挙～争点は憲法改正

自民党結党の原点である自主憲法制定に意欲を燃やす**安倍氏が総裁**になったことで、**次期総選挙の争点に憲法改正論議**が浮上してくるでしょう。自民党は今春、「**日本国憲法改正草案**」を作成しましたが、現在の憲法改正発議要件は厳しすぎます。**憲法96条の規定**ですと、衆参各議院の**3分の2以上の賛成**がなければ憲法改正を発議できません。逆に言うと、衆参どちらかですら**3分の1を超える議員が反対**すると発議すらできないのです。まず、このハードルを引き下げるべきです。発議要件を緩和しない限り、いつになっても「自分たちの憲法」を持つことはできないでしょう。

来たるべき総選挙で、私は憲法改正を旗印に戦い、勝ち抜く覚悟です。

### 〈憲法第96条第1項〉

「この憲法の改正には、各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行われる投票において、その過半数の賛成を必要とする」



祝勝報告会にて、安倍晋三新総裁と共に。

## 柏に安倍晋三総裁が来る！

第111回平成目安塾

新春セミナー開催のお知らせ

【ゲスト】：安倍晋三自民党総裁

【日時】：平成25年2月1日（金）18:00～

【場所】：マリアチャペルマリバール柏（旧玉姫殿）

【会費】：10,000円

☆詳細については、後日HP等にて告知致します。

☆当セミナーに関するお問い合わせは桜田事務所  
野口までお願い致します。

## 党員募集のお知らせ

【入党手続き】桜田事務所までご連絡ください

【自民党員になると】2年間継続した党員は、自民党総裁選挙の有権者となります。また桜田義孝事務所より活動報告や行事案内をお送り致します。

【党員種類】一般党員 年間4,000円 家族党員 年間2,000円

桜田義孝事務所

〒277-0814 柏市正連寺374 TEL:04-7132-0881 FAX:04-7132-6456

ホームページ <http://www.sakurada-yoshitaka.com/>

メールアドレス [web@sakurada-yoshitaka.com](mailto:web@sakurada-yoshitaka.com)

Twitter (ツイッター) <http://twitter.com/ysakurada>